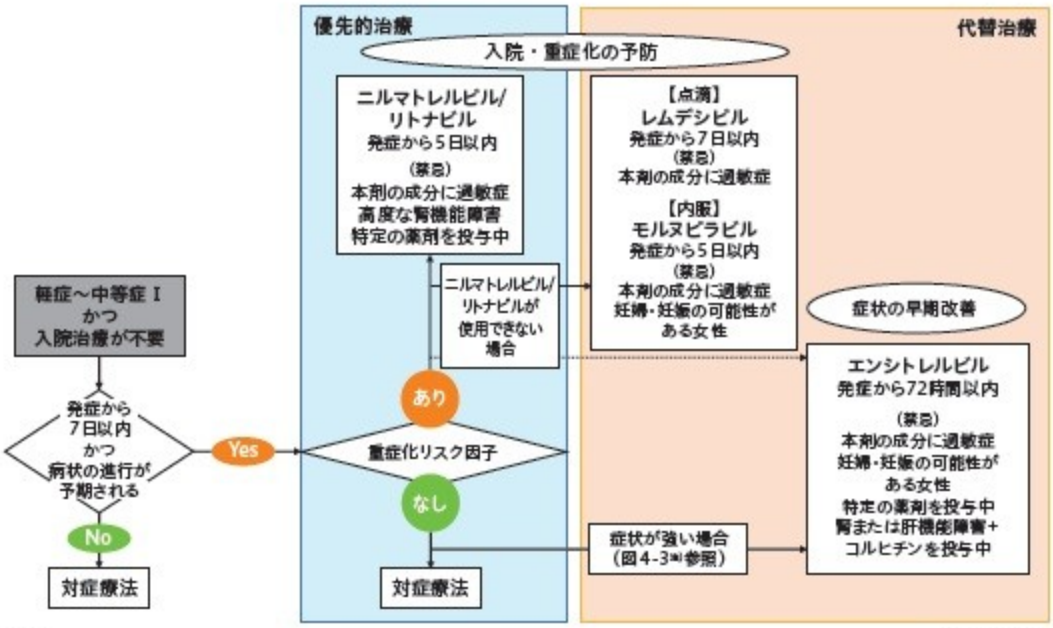
医療介護専用SNSを利用した「奈良あんしんネット」の活用でCOVID-19

の服薬状況について奈良あんしんネットにレポートを挙げてもらうことで、状況を把握することができています。抗ウイルス薬は処方して終わりではなく、処方後も効果を評価し、効果の有無を見極める必要があると考えます。サチュレーションの低下などが確認された場合は次の手を打つ必要が出てきますが、奈良あんしんネットに共有された薬局の薬剤師からの補足情報を参考にすることができるため次の対応へとつなげられています。

重症化リスクの高い患者さんには早期に抗ウイルス薬の投与の検討を

COVID-19患者を診療する心構えとして重要な点は、「発熱を理由に診療制限しない」、「積極的にウイルス検査をする」、「軽症～中等症Iかつ入院治療が不要で、発症から7日以内かつ病状の進行が予期される患者さんには抗ウイルス薬の投与も考えています。しかしながら、「奈良あんしんネット」の登録医師を対象に実施したCOVID-19診療の実態を知るためのアンケート調査の結果から、『新型コロナウイルス感染症（COVID-19）診療の手引き 第10.1版』（以下、手引き）に沿って抗ウイルス薬を投与している一方で、経済的負担を考慮して抗ウイルス薬の投与を患者さんと相談する医師がいる実態が確認されました。このアンケート調査はCOVID-19治療薬の公費負担が終了した2024年4月1日以降に実施したものであることから、その影響が現れている可能性があります。薬価がネックになることも事実ですが、抗ウイルス薬治療にはそれを上回る有用性があります。特に重症化リスクを有する患者さんは、軽症であっても発症後数日から2週目までに病状が進行することがあるため、できるだけ早期に抗ウイルス薬を投与することが重要です[4)]。つまり、薬価だけに目を取られるのではなく、重症化した際のリスクや入院してしまった際の想定費用を丁寧に説明することが

図2 成人の外来診療における抗ウイルス薬の選択



注）手引き26頁 図4-3

（参考）
WHO. Therapeutics and COVID-19：Living guideline. 10 Nov 2023.
NIH. COVID-19 treatment guideline. 24 Feb 2024.
日本感染症学会. COVID-19に対する薬物治療の考え方 15.1版. 14 Feb 2023.
診療の手引き編集委員会：新型コロナウイルス感染症 COVID-19 診療の手引き 第10.1版, 2024 26頁
https://www.mhlw.go.jp/content/001248424.pdf 2025/9/29閲覧